

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	三愛商事株式会社 グループホーム里の家平岸 あじさい	評価実施年月日	平成21年6月1日
評価実施構成員氏名	佐藤 浩昭 小松田 宣孝 武部 まさ子 椿谷 幸子	田中 寿子 江良 孝子 菊地 協子	
記録者氏名	佐藤 浩昭	記録年月日	平成21年6月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	○	<p>昨年より新しく理念を「地域に愛され馴染みのある生活の継続」を一つ掲げたので、今後も入居者と共に町内行事等に参加し地域との関係をさらに深めていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	○	<p>全ての職員は、理念を述べる事が出来き、その理念に沿ったケアを行っている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>里の家だよりを町内に配布したり、運営推進委員会等を開き、地域の人々に理解をして頂きまた、ご意見を受付している。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	<p>隣近所の方々と交流を更に深め、全職員が自然に気軽にご挨拶出来るよう努めている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	○	<p>今後も積極的に関わりが出来るよう取り組み、地域の方々が気軽にホームへ来訪していただけるような関係作りを努めていきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>開催場所は当ホーム敷地内ではなく系列法人施設敷地内(北広島市大曲地区)で行う為、近隣在住の家族様にもお越しいただけるよう、また同行して頂けるようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>全職員で内部研修として各自評価、報告を行い、全職員がその評価内容を把握し評価を活かしている。</p>	○	要改善、改善が必要な項目は、運営者、管理者、全職員と相談し早急に改善していくようにしている。
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議で提案等があった場合は、その内容を本社及び現場で十分検討し可能な限り取り組みに盛り込めるよう努めている。</p>	○	話し合いの中で挙げた様々な意見を更に積極的に実施し、近隣への参加呼掛け等も推進していく事で運営推進会議の内容が実際に活かされている事を知って頂くよう努めていく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>管理者は、札幌市の管理者会議や区の連絡会に積極的に参加しサービスの向上に努めている。また、本社担当職員も市町村への行き来を定期的にも実施しており、都度意見を伺える体制である。</p>	○	今後は管理者だけではなく他の職員が管理者会議、連絡会に参加が出来るように考えている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>今現在制度を活用している利用者様がいるが、全スタッフが制度を把握し活用する体制にはまだ、至っていない。</p>	○	今以上に全職員の理解を深める為、都度の会議や研修参加等で知識を得られるよう努めていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p> <p>全職員は、法について理解し開設以来ホーム内での虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行えているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止に努めていく。</p>	○	今迄に虐待の事実はなく、ホーム内での安心した生活の支援を行えているが、今後更に諸対応に注意し虐待防止に努めていく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>利用者様や家族様にご理解、ご納得して頂くように十分な説明を行っている。</p>	○	特定の職員だけでなく、全職員が同じく家族様の方々に接し、不安等をお聞きし安心して頂ける関係が築けるように取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	全職員が、苦情を受け付ける事が出来き、第3機関についても説明させて頂いている。また、苦情処理についての掲示物も見易い位置に掲げている。利用者様、家族様と常に相談や意見、要望を聞き入れ苦情繋がらないようにしている。	○	利用者様、家族様と常に相談や意見、要望を聞き入れ苦情繋がらないようにしている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	連絡は密接に行っており、面会時には全職員が対応し必要に応じて電話連絡等で近況報告している。また、毎月「里の家だより」を発行し家族様に郵送している。	○	全職員がご利用様について把握行い、小さい変化でも報告し職員と家族様との対応については家族対応記録簿として残している。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様が自由に意見や要望、苦情を言えるような体制を作り改善出来るようにしている。玄関に意見箱を設置しており、口頭では申し出難い意見についても伺える体制である。家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会時等に聞かれた訴えについても記録として残り対応検討する流れが出来ている。今後も同様の流れと対応を継続していく。	○	家族様からの意見や苦情、不満等については本部に相談窓口を設けているが、面会時等に聞かれた訴えについても記録として残り対応検討する流れが出来ている。今後も同様の流れと対応を継続していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員意見の反映については、毎週定期的本部職員が現場に入り各種会議の際及び日常業務の中で聞き取りを行い、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。	○	入居者様の生活上必要な物品等の設備に関する職員意見が殆どであるが、随時改善対応行っており、より生活し易い空間作りにも努めている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	特に入居時には管理者やリーダーが勤務に当たるよう調整を行っており、それ以外の特変時についても必要範囲でシフトの組み換えを行っている。しかし、普段日常については、全職員が同一の対応が取れるよう指導教育している為勤務変更はない。	○	職員が常に利用者様に沿った動きが出来るようにしている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員異動は基本的には行っていないが、不慮の事故等での一時的な変更はある。職員異動が入居者様にとってダメージと成り得る事は法人として十分理解把握している。今迄にも職員異動はあったが、普段よりユニット間の行き来やすれ違い時の挨拶等行っている為、全職員が全入居者様と顔馴染みの関係であり、大きな問題や混乱は何えていない。	○	今後も職員と入居者様が馴染みの関係を築けるよう配慮継続している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>毎月1回本社にて内部研修を開き質の向上に努めている。また、外部の研修等にも積極的に参加している。</p>	○	<p>職員の指導教育は基本的に管理者、リーダーが主として行っているが、方針の理解や制度等については本部職員より直接会議で周知されている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>本部内による、月1回の合同会議で情報交換は行われている。また、管理者は地域の管理者連絡会に出席し、同業者との交流を行っている。</p>	○	<p>守秘義務等の兼ね合いもあり中々具体的な内容までは意見交換はなされないが、互いに困っている事や職員の質向上について同じ目線で話し合える関係を築いて行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>法人の取組みとして、忘年会や新年会の実施をし職員のストレス軽減等に繋がればと考えている。また、職員の会として互助会を設置しており、懇親会や食事会等の実施も行っている。</p>	○	<p>今後、互助会だけでなく職員意見が更に聞き入れられる機会を本部で設けていくよう努めている。スペース的な問題は理解出来る為、その他の環境整備等で休憩時間のストレス緩和に努めていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>資格取得、個別の実績、勤務状況について本部で評価を行っている。</p>	○	<p>職員個々の評価を判断する為、日々定期的に本部が現場状況の確認を行っており、職員の努力や勤務姿勢について把握出来るよう努めている。また、向上心に繋がるよう多種研修会等への参加も推進している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居される以前に面談及びホーム見学をして頂き不安等が軽減されるよう取組んでいる。また、本人様から要望や不安事をお聞きし、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。</p>	○	<p>家族様と離れ独居及び入院されていた方の希望等の聞取りには困難を極める事もあるが、入居されてから密に関りを持つ事で情報収集し、それにより得た情報を可能な限り早期に実現し満足度に繋げる努力をしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族様から面会、電話連絡時に要望や不安な事を傾聴し、全職員で取り組む努力を行い、早期解決し家族様に安心して頂けるように取り組んでいる。</p>	○	<p>全職員が家族様に同じ対応が出来るように今後更に取り組んで行く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	全職員と検討し、「その時何が必要か」を見極め、支援出来るように努めている。また利用者様の身体能力に合った他のサービス利用について、家族様に情報を提供、相談し、本人様が安心出来る生活を支援出来るように取り組んでいる。	○	利用者様の身体能力に合った他のサービス利用について、家族様に情報を提供、相談出来るように取り組んで行く。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所の相談、見学については担当者が家族様と時間を多く設け十分に理解して頂いている。また、担当者が職員との情報交換を密に行い、場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。	○	本人様の意思確認が明確に出来る方とそうでない方がいらっしゃるが、特に意思確認が困難な方について満足度や安心感を理解把握する事にも努めている。新たな情報を知り得た場合の迅速な対応について今後も継続し実践していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人様の話を傾聴したり、共に家事等を行う事で勉強になったり支え合う関係を築いている。	○	該当する場面を個々人様に対して提供し、入居者様が役割があると実感でき、共に支え合う関係作りを更に推進していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族様には御本人様について、いつでも相談が出来るような関係を築いている。	○	協力的なご家族様とそうではない方との開きはあるが、長く生活を共にし密な連絡体制を継続する事で少しでもケアに関心を抱いて頂けるよう努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御本人と御家族様がよりよい関係が築かれている。	○	ご家族様には伝わらない本人様の思いや意向を職員が汲み取り、分かり易く説明する事で少しでも関係の改善を推進している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所に出掛けたりする事で、今までの関係が途切れないようにしている。	○	馴染みの人や場所の現状等についてご家族様より入居者様に伝えて頂ける等、日常的な会話の中に盛り込まれている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	少しでも孤立しないよう、ホール内での楽しみを増やす事や、都度の声掛けによりお手伝いに参加して頂く等の取り組みを実施している。	○	他者との関わりが苦手な方もいらっしゃるが、行事等への参加促し継続しており長期的な関わり支援を実施している。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居となられる際には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援させて頂いており、退居された後もご家族様が遊びに来て頂ける等の関係が築けている。	○	退居された方が入院されている病院や施設に立寄った際には、可能な限り声を掛ける等の配慮を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段日常の会話内容や反応を確認把握し、口頭での申し出以外の意向についても汲み取る努力をしている。汲み取った意向については可能な限り早期実現出来る様努めている。	○	表現する事が困難な入居者様に対して、本人様にとって選び易い選択肢を設けたり、絵やジェスチャー等でも汲み取る工夫にも更に努めていきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時及び入居される事前の聞き取りでバックグラウンドの把握に努めているが、入居された後も随時聞き取れた情報を追記し、これまでの生活歴をより具体的に把握出来るよう努めている。	○	サービス利用、入院歴等については把握しているものの、どの様な治療を行ったのか等について一部具体的ではない為、今後更に具体的内容の把握に努めていく。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	普段の生活風景からパターンやスタイルを把握し、気分の変化等についても情報収集を行っている。現状持てる力については随時見極め対応を行っている。	○	1日の流れに限らず、1週間、1ヶ月等長い期間での本人様状態の変化の把握確認を継続して実施していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ユニット会議を行った意見、全職員でケアプランを評価し、また家族様の要望を取り入れながら、リーダーが介護計画を作成している。	○	現在、全てのケアプラン作成はアセスメントをセンター方式へ移行し今まで知り得なかった情報を収集している。また、必要に応じて家族様へアセスメントの記入をお願いし今まで知り得なかった情報も収集している。その情報を元に利用者が少しでも「その人らしさ」「出来ることの支援」が出来るプランへ反映している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に、全職員で更新を行っている。また、状態変化や入退院等については随時見直しを行い、家族様の要望を取り入れながら利用者様の身体能力に沿った介護計画を作成している。	○	常に入居者様の変化やニーズを見逃さずに必要に応じた見直しを行う事で現状に即した計画の作成に努めていく。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	利用者様の変化やケアの実践・結果を記録し次の介護計画作成に生かせるような記録をするようにしている。	○	入居者様を様々な側面から見て、より具体的な個別記録となるよう努めていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	柔軟なサービス提供に努めている。理美容院の利用も個人様々の要望に沿い実施する事や、医療機関も家族様の意見を取り入れ対応を行っている。	○	事業所側の対応とし様々な要望に応える心構えは出来ているが、まだ十分に要望等を引出せているのか判断が難しい為、今後も継続して関りを深める対応に努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人様の意向及び必要性を考慮し、地域ボランティアの方々の協力を得る事や、町内行事への参加を継続的に実施している。また、消防署とも緊急時の体制等で助言指導頂けている。	○	開設時より地域に根ざした感が実感としてあり、地域の方々からの呼掛けや、事業所側からのお誘いについて円滑な交流が行なわれるようになっている。入居者様意向の実現も地域の方々のご協力で実現する頻度も増加している。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者様の身体能力に応じて、必要なサービスが受けれるように家族様に情報提供と相談助言を行っている。	○	同法人で運営する他事業所のケアマネージャーとケース等について相談する機会があり、事業所の機能を十分活かし本人様のより良い生活について検討が行えている。今後も更に同様の取組みを継続していく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じ、包括支援センターの方からのアドバイス等受けられるようになっている。具体的内容の話しになるケースはまだ少ないが、必要性に応じて協働していく考えである。	○	具体的事例がまだない為判断は難しいが、今後も運営推進会議内だけでなく、その必要性に応じ随時協働して頂けるよう関係を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関以外にも本人様や家族様が希望する医療機関で医療を受ける事が出来るように支援を行っている。また、主治医の指示の元専門の医療機関を活用し主治医との連絡、相談、報告を密にしながら日常の健康管理の把握をしている。	○	今後も入居者様、ご家族様の希望を取入れていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	現在の協力医療機関の主治医は、認知症について理解や知識が豊富で、様々なアドバイスを頂いている。今後も現在の関係を継続していきけるよう協力し専門的なアドバイスを頂く事で日常ケアに活かしていく。	○	今後も現在の関係を継続していきけるよう協力し専門的なアドバイスを頂く事で日常ケアに活かしていく。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関で2週間に1回、訪問診療を行っており、同行する看護師を主治医との連絡のパイプ役になって頂き指示を仰いでいる。	○	今後も直ぐに相談が出来る関係を継続し更なる連携を深めていく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	協力機関関係者とこまめに情報交換や相談に努めている。又、退院後の生活に不安がないように、配慮し支援を行っている。	○	今後も早期退院に向けた連携を維持継続していく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族様や主治医、協力機関と、相談や連携行い全職員が支援を進める体制を取っている。	○	今後、更にターミナルケアを望まれる方が増える事が予想される為、職員個々の知識や技術の向上に努め、いかなる場合においてもスムーズにターミナルケアが行える状態であるよう日々スキルアップに努めていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態の変化があれば常に主治医の指示を仰ぎ、ケアのプロとしてチーム全体として「できること、できないこと」の支援を行っている。	○	チームケアの向上については様々な要素があり、個々の能力、職員間の声掛け、情報収集、情報共有その他にも多々あるが、これらが全て円滑に出来、十分な内容が伴う事でチームとして力を発揮出来るという事を今後も職員指導の一環として行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	関係者や家族様からこれまでの生活について情報を集め、また、転居先への情報提供を行い、これまでの自分らしい生活が保てるように努めている。	○	今後もダメージを防止する為にご家族様やその他関係者と連携を深め支援を行っていく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	本人様の意思を受け入れ、プライドやプライバシーを損ねないように心がけている。	○	今後も相手の立場になり考える事や、尊厳を持って接する努力を行っていく。また、声掛け内容には十分注意し、何気ない言葉でプライバシーを侵害してしまう事のないよう職員間で注意指摘し合える関係の継続にも努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	希望を取り入れる為選択肢を用いて、利用者様が自己決定出来るように支援している。	○	希望を汲み取り易くする為に写真や絵を使って選択して頂いたり、TVや新聞、普段の会話の中からも情報や希望の把握に努めている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人様様のペースや希望を優先しサービスの提供を行っているが、一部入浴については他者の安全も考慮し日中帯の支援とさせて頂いている。これについては本人様とも十分話しをし納得されている。今後も個人様様の生活ペースを大切にしながら本人様様の希望に沿った毎日を送れるよう支援させて頂く。	○	今後も個人様様の生活ペースを大切にしながら本人様様の希望に沿った毎日を送れるよう支援させて頂く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	随時希望は申し受けるようにしているが現在は殆どの方が訪問理容師に依頼している。また、家族様がホームに来所し本人様を散髪したいと希望もあり、配慮している。	○	入居者個人様様の好みを把握し、能力や状態に合わせその人らしいおしゃれの支援を行えるよう更に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	本人様の体調や身体的負担にならない簡単な調理の下準備の範囲で力を発揮して頂き支援をしている。また、個人様様の好みについては随時取り入れ提供している。	○	現在は、準備や片付けのみ見守りを行いながら出来る事をやって頂いている。今後は支援の継続とセンター方式を活用しながら更に新しい能力を引き出せるようにしたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	望む嗜好品に関しては、希望を取り入れるように支援を行っているが、喫煙についてはホーム内禁煙となっており、全入居者様及びご家族様に事前説明を十分に行う事でご理解頂いている。	○	喫煙についてはホーム内禁煙となっており、全入居者様及びご家族様に事前説明を十分に行う事でご理解頂いている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	現在は、リハビリパンツや尿取りパットを使用する方々が殆どである。また、排尿パターンを把握したり必要に応じてトイレを促しを行い失禁することなく快適な排泄が出来るように行っている。	○	今後更にオムツ使用を可能な限り少なくするよう支援継続し、自立に向けた取り組みに努めていく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は決めているが、随時希望に沿った対応も実施している。夜間対応は他者の安全面を考慮し行っていないが、家族様等のご協力が得られれば可能である。	○	入居者個人様様の希望に沿い、気持ちよく入浴して頂けるよう今後も支援継続していく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転等の状態がない限り、自由に生活が送られるように支援を行っている。	○	休息についてもソファや居室で休んで頂く等、個別対応を今後も継続していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事活動への参加や、外出は気分転換を考え利用者様を誘いながら支援を実施している。	○	今年度より、センター方式を取り入れ個人様様の出来る力、個性やバックグラウンドを把握し、活躍の場や役割、楽しみごとを提供していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいない項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現状では金銭管理が困難な方が殆どである為、金銭の管理を行っている利用者様は殆どいない。しかし、買い物等へ行った際には金銭を支払う事をお願いする等、極力金銭所持の大切さを実感して頂けるよう工夫している。	○	管理出来ない方にも買い物等に出かけた際には本人様の財布に金銭を入れ自身で支払をして頂く等、安心や自信に繋げる支援を行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り個人様様の希望に沿った外出を支援しており、その日に実施出来ない場合でも近日中に実施する事で気分転換を図っている。また、希望によって系列法人施設の整骨院を休日以外は受診を利用され外出されている。	○	冬期間は比較的ホーム内に閉じこもりがちとなる為、安全面に配慮しながら可能な限り外出機会を持てるよう努める。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個人様様が行きたい場所を把握するよう努め、行事立案の際に希望を取入れたり、ご家族様と共に出席して頂いたりしている。今後、行事にはご家族様も参加して頂けるような機会を増やして行きたい。	○	今後更に可能な限り個別対応を推進して行きたい。また、行事にはご家族様も参加して頂けるような機会を増やして行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	いつでも自由に家族様、友人様と気軽に電話や手紙のやりとりが出来る体制である。	○	今後もプライバシーに配慮しながら個人様様の能力に応じた必要な支援を継続していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に来訪出来る環境作りを行っている。また家族様もいつでも面会に来られている。玄関先に花を植える等でも入り易さの工夫に取り組んでいる。	○	今後も居心地良く過ごせる雰囲気作りにも努め、コミュニケーションや情報交換等が円滑に行われる関係作りを目指していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行ってはいない。また、その事を全職員が理解している。	○	今後も身体拘束のないケアを実践していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	近隣の交通状況及び利用者様の安全確保を優先するため、やむを得ず電子錠をかけている。また、その事を家族様に説明し理解を得ている。	○	時間帯により安全確保した上で開錠出来る環境作りに努めたい。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者様の、プライバシーに配慮し安全への把握に努めている。	○	職員間で声掛けを行い入居者様の様子を把握し、必要な際は迅速な対応がとれるよう今後も努めていく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、洗剤、ハサミ等の管理が必要な物は、職員の方でお預かりさせてもらっているが、必要に応じて渡せるようにしている。	○	個人様の持ち物については能力に応じ、本人様及びご家族様のご理解を頂いた上、安全確保の為の管理を行っている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	火災や救急、応急処置の対応の実施などの基本マニュアルがあり、非常時に備えて訓練を行っている。	○	事故の再発を防止出来る様、事故報告書を活用している。又、ヒヤリハット事例を元に事故を未然に防ぐ対応策についても検討が行われている。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急処置についての研修は実施されており、主治医からも随時必要な対応について伺う事が出来ている。しかし全職員が、急変時や事故発生時にマニュアル通りに対応出来るか不安要素がある。	○	今迄の事故や急変時等の事例を元に、より具体的な対応マニュアル等を作成し定期的に訓練を行いたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	身体能力に合わせた避難誘導の方法を作成している。	○	近隣の方々の協力体制についても運営推進会議を通して理解が深まってきたと感じる。今後更に訓練の中で緊張感を持ち、実際の災害を想定した様々な状況下での職員対応を養っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスク管理と自立支援の両立について家族様と都度お話をさせて頂いている。個人様毎に起こり得るリスクは様々であるが、特に転倒の可能性については本人様の状態変化を踏まえ家族様に説明している。	○	自立支援を行う上でのリスクは特にプライベート空間で発生するケースが殆どであるが、入居者個人様の生活スタイル等を把握し安全な環境整備に努める事で可能な限りリスク幅を軽減していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定にて体調に変化があった場合は、早急に勤務者で確認し合いリーダー及び管理者に連絡し、必要に応じて主治医に連絡、相談している。	○	今後も迅速に適切な対応をとれるよう努める。又、自ら訴える事の出来ない方については特に注意して様子観察を行なっていく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬支援についてマニュアルがあり実施している。また、全職員が常に作用、副作用等の理解把握が出来るように、処方箋をファイルし確認できるようにしている。予薬、セッティングは必ず別々の職員が薬を確認し服薬支援を行っている。	○	服薬管理については業務の一流れとして捉える事なく、複数の職員が確認出来、責任の所在についても明確としている。また、服薬方法も法人で取り決めた統一对応を行っている。今後更に処方箋変更時等に十分注意し対応継続していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分の提供、ヨーグルト等の乳製品の提供、食物繊維が多い食事の提供に取り組んでいる。	○	今後も食事・運動への取り組みを実施していき、自然排便が出来る様支援継続していく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアがより確実に実施されるに支援しているが、その時の状況及び本人様の意志により毎食後実施出来ない場合がある。その場合もうがい等の促し継続しており口腔状態が最善に保たれるよう支援している。	○	毎食後の口腔ケアがより確実に実施されるよう、本人様が気持ちよく口腔ケアに応じられる対応を検討し実践していく。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の摂取量は介護記録へ、水分摂取量はバイタルチェック記入し、個別に状態に応じた食分量、水分量を提供している。摂取量の少ない方には、好みの物等の補食について対応しており、今後も個別対応を継続していく。	○	摂取量の少ない方にはチョコレートやエンシュア等の補食について対応しており、今後も個別対応を継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	作成した感染症マニュアルがあり行っている。	○	感染症に関する知識と対応について、研修会等の参加により情報収集を行い、その内容を職員間で共有する事で更なる予防の徹底に努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾、まな板等の消毒は漂白剤使用してる。また、台所の清掃も毎食後に行っている。賞味期限等についても十分確認が行われており、安全な食材提供が出来ている。今後も継続し衛生管理の徹底と食中毒予防に努めていく。	○	今後も継続し衛生管理の徹底と食中毒予防に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節に応じて、花を植えたり、木や建物にイルミネーションを飾り点灯する事で安心して出入り出来るようにしている。今後も家庭的な雰囲気作りに努めていく。	○	今後も家庭的な雰囲気作りに努めていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活感が出せるように、ほうきやちりとりを設置いつでも利用者様が使用出来るようにしている。また、季節にあった飾りをホールに飾ったり、常に季節感を採り入れている。	○	今後も入居者個々人様に生活上の不満点等伺いながら、一層快適に生活して頂けるよう努めていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂の自分の席や応接ソファにて自由に過ごされている。今後も安全確保に注意しながら個々人様が思い思いに過ごせる空間作りに努めていく。	○	今後も安全確保に注意しながら個々人様が思い思いに過ごせる空間作りに努めていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分が使い慣れ親しんだ物を持って来て頂いている。日常生活に本人様、ご家族様と相談しながら懐かしみのある物品や馴染みある物品を取入れ、その人らしい生活が送れるよう支援を行っていく。	○	今後も日常生活に本人様、ご家族様と相談しながら懐かしみのある物品や馴染みある物品を取入れ、その人らしい生活が送れるよう支援を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>全個室、ホールに温湿度計設置しており、熱中症や風邪等の感染症予防の為に、応じて換気等を行い適切な温湿度が保てるよう配慮している。</p>	○	<p>各居室に温湿度計を設けており、適切な温湿度が保てるよう配慮している。今後も継続していく。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>出来るだけ自立した生活が出来るようにバリアフリーでホール、トイレ、浴室にはすべて手すりがついている。</p>	○	<p>今後、入居者様個々の身体状況や認知力に合わせた環境整備に努め、入居者様が自身の能力を活かして生活出来る環境を目指したい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>全ての物(衣類や表札)に名前を記入し分かる力を利用し自立して暮らせるように支援している。</p>	○	<p>今後も個人様ごとのわかる力を活かし、自立して暮せる環境作りに更に努めていく。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>周囲には、花を植えたりベンチを置き楽しく活動が出来るようになっている。</p>	○	<p>今後もホーム周囲の空間を利用し入居者様が活動出来る様、安全確保を行いながら支援を継続していく。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 普段の食事や行事食の彩りや栄養バランスが良い事です。ホームに訪問診療に来られる主治医に「高齢の方とは思えない、素晴らしい採血結果だ。」と診療中話されていました。あじさいに入居されている利用者様の楽しみといえば、彩りがよく、栄養のバランスの整った食事と考えていいかもしれませんが、まずは見た目喜んで頂いています。